

第5回「ナンバープレートのあり方に関する懇談会」議事概要

1. 日 時 平成 24 年 6 月 5 日（火） 15：00～17：00
2. 場 所 国土交通省（中央合同庁舎第3号館） 4階 幹部会議室
3. 委員からの主な発言

（1）中間とりまとめに対するパブリックコメント結果について

- ナンバープレートの形状に関心が集まったが、中間とりまとめで提示したイメージが違う形であれば、パブリックコメントの結果も違ったものになったのではないか。形状の見直しについては、将来的にあり得べしと考えればいいのでは。
- 形状については賛成が思いのほか多いという印象。デザインは好みでありこれだけで判断するのは難しいと思う。視認性について否定的な意見が多いが、これをクリアするのは大きな条件である。これは中間とりまとめの案の図柄を基に判断しており、見る限り視認性が劣ると思う。例えば数字4桁にアクセントをつける等とすれば視認性に関する不安は減ると思う。
- ご当地ナンバーは意外に反対が多いという印象。地域振興、観光振興という優位性を強調していたが、これはご当地の人たちがどう思っているかであり、ご当地以外の人は関心が薄いということなのかもしれない。
- ネガティブな意見の中で結構大きいのは、なぜ今やるのか、税金の無駄遣いではないか、ということ。そもそもご当地ナンバー等をどうするかということで始まった懇談会の趣旨がパブリックコメントに伝わっているのか。検討の意義をうまく伝えられたらいいと思う。
- 社会全体の費用対効果が高いということを示さなければいけない。また、視認性について、とっつきやすい形状を除くと一番意見が多く、関心が高い事項となっている。この2つについては注意していかなければならない。
- 様々な意見がある中、形状や視認性については懇談会として強く方向を打ち出さないとまとまっていけない。
- パブリックコメントでの賛否がすべてではない。視認性の良い横長デザインもあるはず。また、どうすればコストを抑えられるのか、それとなぜ今やるのかということについて十分な議論が必要である。

- 形状に関する意見が多く、これは参考イメージに目が行ってしまった結果だと思う。懇談会の位置付けを今一度認識してもらい、タイミングとコストについて理解してもらう必要がある。
- 「よくこんなに意見が来たな」という感じ。これをどうするかだ。
- 形状反対の大部分は視認性に関すること。イメージ図ではメリハリがなく、文字数を減らして4桁の数字を強調すればまた違ってくるだろう。
- 中間とりまとめの中で形状については、国際的標準化を見据えつつ引き続き検討というのがスタンスだったはず。世の中の流れの中で標準化されれば、その時どうするか、ということではないか。
- パブリックコメントの数字がすべてではない。今後の懇談会での議論を踏まえてスタンスが決まれば、視認性の問題などはデザインによってクリアできると思う。また、コストにも様々な種類があり、どこを重視するかを整理して示すことで解決できるのではないか。
- この結果を見てあり得る方向性を議論し、行政に受け止めてもらい、スタンスが決まれば、費用対効果の説明の仕方等も含めて整理できるのでないか。また、事務局には検討の意義をあらためて確認してほしい。
- 委員の指摘はほぼ同じ方向性だと認識しており、基本的には積極的にとらえていければいい。

(2) ナンバープレートを巡る諸課題について

- ナンバープレートの取付けについて、封印と盗難防止ネジを併用することでより確実にナンバープレートの真正性が担保され、賢明な方法だと思う。
- 盗難防止ネジがあるのなら導入すればいい。費用もそれほどではないと思う。
- 封印制度について、根本的に必要なのか。必要としても全国同一のものとするなど簡素な形にするべきではないか。
- 封印やナンバープレートカバーの取扱いについては、すぐ対応できる課題である一方、ナンバープレートの交付方法や社会的機能の拡大は、より難しい課題である。

- 東京のワンストップサービスの利用率が上がったのは車庫証明の発行方法が変わったためである。
- ワンストップサービスとはいえ、封印等があり1度は支局に行かなければならない。自己責任においてナンバープレートを取り付けることになると大変なことになる。
- ワンストップサービスはいろいろなシステムと連携しており、どこかで障害が発生すると全部止まってしまうというリスクも現時点ではある。使い勝手を良くしていく必要がある。
- 社会的機能の拡大について、ETCがだいぶ普及しているためそれを利用できればいいのではないか。ただ、全車両に付いているわけではないため費用がかかってしまう。

(3) その他

- 極論を言えば、ご当地ナンバーを導入したい地域にシステム費用等のコスト負担をさせ、導入後の効果を一定期間後に説明させるということも考えられる。希望ナンバーは、払出しが終了した結果、社会的に議論が展開されるということもあるのではないか。
- ご当地ナンバーは地域からの提案という形でいいのではないか。また、希望ナンバーが枯渇することはいけないことなのか。
- 抜本的に考えることと今やらなければいけないことを整理し、今のナンバープレートでやれることはやればいい。
- やれることからやる、ということであれば分類番号のアルファベット導入ではないか。
- 現在の形状を前提とするかどうかについては難しいところだが、すぐかどうかは別として形状や表示事項も検討のうえ報告することになるのではないか。
- 形状を変えるメリットもあり、形状を変えること自体の可否を議論してもいいのではないか。